

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
観察、実験から得られた情報を表やグラフなどにし、結果を適切に記録すること。	観察、実験の結果と学習問題を照らし合わせて判断し、自分の考えを表現すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	ア 実験結果を正しく結果を記録することが苦手である。 イ 観察、実験の結果をまとめ、考察することに課題がある。	ア 学習問題を把握し、何のための実験かを全体で共通理解し、結果を正しく記録できるようにする。 イ 観察、実験の結果を表に整理して比較し、事物・現象について考えたり説明したりする活動に取り組む。	年間を通して	ア 学習問題を児童の気付きから設定し、実験の目的を明確にすることで、結果を正しく記録できるようになってきた。 イ 実験結果を共有し、全体で比較することで考察することができるようになってきている。
第4学年	ア 観察、実験から得られた結果を表やグラフなどに記録することが苦手である。 イ 実験の目的を十分理解して学習することが苦手である。	ア 結果をグラフや表などにまとめる場面を設定する。 イ 主体的に問題解決に取り組むことができるように、何を調べるために実験をしているのかを理解できるように、学習問題に対する自分の考えをもって実験することができるようにする。	年間を通して	ア 観察や実験から得られたこと結果を表やグラフに書く経験を繰り返すことで、記録できるようになってきている。 イ 何のために、何の実験をするのか明確にすることで、主体的に取り組む児童が増えてきた。
第5学年	ア 実験の過程や得られた結果を適切に記録することが苦手である。 イ 学習問題を解決するための実験の方法を考えることが苦手である。	ア 問題を解決するために必要な記録の内容を検討したり、どのような記録が有効か確かめたりする場面を設定する。必要に応じてグラフなどの記録方法を提示する。 イ 実験方法を考えるために、どのようにすれば分かるのかを考えたり、説明したりする活動の充実を図る。	年間を通して	ア 実験結果を表だけでなくグラフで表したことで、傾向をつかみやすくなり、児童がグラフを活用することの良さを感じることができた。 イ 問題を解決するための方法をグループで話し合う中で、主体的に実験方法を考えることができるようになってきている。
第6学年	ア 実験の過程や得られた結果を、適切な方法を選択して記録することが苦手である。 イ 既習の知識や観察・実験で得られた知識から、より妥当な考えを作り出すことを苦手としている。	ア 結果を共有する場で、より良い記録方法について考え、実際に表現していき、その記録方法の妥当性について考える場面を設定する。 イ より妥当な考えを作り出すことができるように、実験結果を共有する際に、共通点や相違点に着目しながら、より妥当な考えについて考える場面を設定する。	年間を通して	ア 最適な記録方法を問いながら指導したことで、適切な表やグラフを用いて記録することができた。 イ 観察や実験結果から考察する際に、どのような言葉でどのように表現するかを意識して考える児童が増え、妥当な考えを作り出せるようになってきた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
【個別最適な学び】 ○指導の個別化 ・学習動画、検索機能、などから自分に合った方法を選び理解を深める。 ・画像提示機能や情報共有ツールなどを使い、自分に合った方法で考えたことの発表や共有をすることで学んだ事の理解を深める。 ○学習の個性化 ・自分で設定した課題について、検索機能、学習活動を活用してものの見方を深めたり広げたりする。 【協働的な学び】 ・調べたことを共有機能、スライド機能、共働編集機能、カメラ機能、プレゼンテーション機能を活用して交流し、よりよい考えを生み出す。	【3年～6年】 ・学習の後に何が分かったのか、何が身に付いたのか、自分の考えに変化があったのか、他教科や日常生活とつながりがあるかなど、具体的な視点を与えて振り返りをさせ、今後の学習や日常生活に生かす力を高められるようにする。 ・問題解決の過程を繰り返し行い、児童が見通しをもって学習できるようにする。